

# 売れる米技術情報（No.8）

## ～売れる「新潟なんかん米」づくり運動～

### 品質向上対策3本柱！

#### ①適正籾数確保

『なんかん米

#### ②後期栄養・水の確保

光る粒張り

#### ③土づくり

粒ぞろい』

平成19年9月13日  
JAにいがた南蒲

- ・ **土づくりは秋作業が基本！高品質米生産は今秋から始まっています！**
- ・ **最近一部の稲わらや籾殻の焼却、乾燥機から排出される粉塵に係る苦情が寄せられています。生活環境等にも配慮した生産活動を行いましょう。**

### 1 土づくりは稲わら・籾がらの秋すき込みから

秋すき込みは、土壌の保水性や生育後期の窒素供給力を増加させ、異常気象下における稲の抵抗力向上、登熟向上による高品質・良食味米の安定生産に欠かせません。初期生育期の窒素飢餓を軽減し、根腐れの原因となる硫化水素の発生を抑える効果があり、初期生育の確保に役立ちます。

また、籾がらは非常にゆっくり分解されますので、すき込んでも生育への悪影響はなく、物理性の向上に効果があります。

稲わらと籾がらの有効利用により、焼却ゼロのクリーンな産地を築きましょう。

### 2 秋すき込み作業のポイント

1. すき込みを **10月中旬**（稲わら等を分解する土壌微生物は、15℃以上の地温で活発に活動）**までに行う**ことで、稲わらの腐熟が促進されます。
2. すき込みの耕深は、作業能率や酸素供給を考慮し、5～10 cm程度としましょう。

米の保管場所に複数の鍵をつけるなど、農作物の盗難を防止しましょう。

乾燥・調製時の運転音や排塵の飛散防止等にも配慮しましょう。